慶應義塾大学 大学院教育改革支援プログラム

創薬に向けた医薬科学を先導する人材の養成

取組代表者

河上裕（医学研究科）　笠原忠（薬学研究科）

Keio University

本課程人材養成目的

薬学研究科と医学研究科の修士課程連携体制を新たに構築し、将来　創薬を目標として学際的な研究を先導し、薬剤の創成から臨床応用までのプロセスに、各自多様なバックグラウンドを活かして貢献できる人材を養成する。

大学院教育実質化への取組み

広い視野と科学的思考を備えた人材の養成

多様な学部出身者が、高度医薬研究に接する最初の重要な教育課程

- 短い修士課程２年間を効果的に活用するメリハリのきいた大学院実質化

各自の研究活動を最重視

- マンツーマン指導　（直接指導者登録制）

多様な方向性を考慮できる実体験をさせるプログラム＜所属研究室に拘束されない環境＞

- 医学・薬学研究科連携による多様な体験が可能な環境

　合同ガイダンス･サマースクール･シンポジウム

　医療･ Translational Research体験　（大学病院、企業参加リサーチパーク）

　最先端医薬研究体験　＜本学で実績のある教育研究基盤の活用＞

　（21世紀COE, G-COE, がんプロ養成プラン, クリニカルリサーチセンター, 先端生命科学研究所）

強い情熱をもち自立的に活動できる人材養成

段階的な強い動機付けプログラム

- 医薬合同ガイダンス：修士課程後の進路も含めたガイダンス
- 基礎学習：医学・薬学基礎課程
- 早期研究動機付け：医薬合同研究サマースクール
- 医療体験による動機付け：選択科目
- 最先端研究体験による動機付け：研究クラスター
- 各自研究課題の遂行：修士論文作成・発表

自立的な研究活動訓練

- 自主的研究費管理
- 自主的シンポジウム企画運営

教育研究環境改善 学生支援

医薬修士運営委員会による運営管理

段階的な進路指導

多様な学部出身者の長所・特性を十分に考慮した、基礎・臨床医療系複数指導者による多様なキャリアパスを明確にした進路指導

先端的な教育法

iPodやKeypadを用いた新教育法の試み

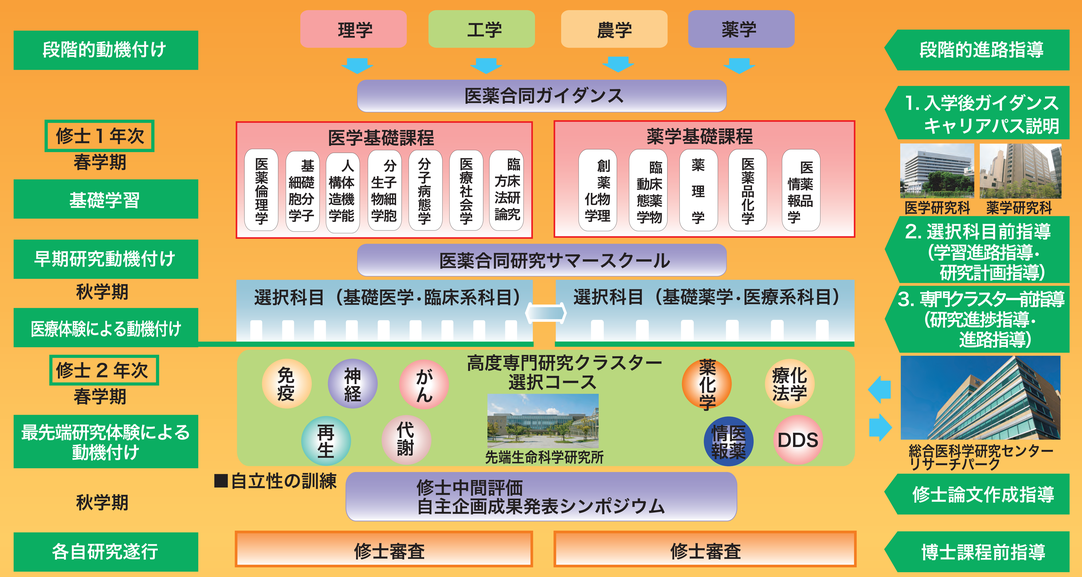
学生に対する経済的支援

TA/RA制度の充実、修士留学生に対して、渡航費補助と生活費を奨学金として給付する「未来先導国際奨学金」制度

情報発信

本課程の方針、内容、成果、卒後進路、自己点検・外部評価結果等の公表により、優秀な人材の確保

本教育プログラム



- マンツーマン指導下に、各自研究遂行により、問題提起、問題解決、情報発信能力を訓練する。
- 医療・最先端研究体験と自立的活動訓練により、知識や研究能力だけでなく、バランスのとれた倫理性と社会性をもって、卒業後も、創薬に向けた医薬科学研究に自立的に対応できる人材を養成する。

期待される成果

- **創薬に向けた医薬科学研究に対する強い情熱・論理的思考・自立性をもち、将来、創薬・医学分野で社会を先導できる人材の養成が期待される。**
- **多様な学部生が最初に入学する本修士課程の活性化は、本学一貫教育研究体制全体の活性化への貢献が期待できる。**
- **新しい工夫を盛り込んだ、実質的効果が期待できる教育課程であり、日本での大学院教育実質化において、波及効果が期待される。**